

マエジロアカフキヨトウを兵庫県市川町で採集

坪田 瑛

マエジロアカフキヨトウ *Mythimna pallidicosta* はヤガ科・ヨトウガ亜科の南方系のガで、その分布は屋久島、台湾、フィリピン、スマトラ、インドなどであり、日本では最初に屋久島で発見され、その後奄美大島や熊本でまた2005年には四国の愛媛県でも採集されている。これまで報告されているところの北限は四国および九州地方とされていたが、すでに鳥取県で2016年11月に採集されたとの記述がある(砂場之國の昆虫記, 2016)。食草はいまだ不明らしい。

筆者は2016年9月末に兵庫県神崎郡市川町屋形の播但連絡自動車道の市川パーキングエリア内で本種1個体(写真)を採集したので報告する。



いつものように採集に出かけるとアワヨトウによく似ているがそれよりも格段に赤みの強いガが居るのを見つけた。最初は名前が分からなかったが、調べていくとマエジロアカフキヨトウであることが明らかになった。

これまでの報告によると初期の段階では標高の高いところで採集されているがその後は平地や海岸沿いでも得られている。本種を採集した当該パーキングエリアは背後に通称大谷山(標高355m)と呼ばれる山裾にありパーキングの直ぐ下には国道312号線(標高約110m)が通っている中山間地といえるところである。

Digital Moths of Japanによると本種の特徴は「前翅の翅型はアワヨトウに似るが、やや幅広い。前翅は赤褐色、暗色鱗片を密布し、前縁および翅脈は白色を帯びる。中室下角に小白点を表す。後翅内半はやや淡色翅脈は暗色に染められる。」と記されている。しかし名前にある「マエジロ」という言葉にしては標本を前斜めから観察してようやく判明する程度であった。

本種の今回の採集や島根県での観察例を合わせて考えると、年々北上の傾向にあることが伺える。今後、どのように分布を広げていくかが注目される種であるといえる。

○参考文献

砂場之國の昆虫記 <http://mothra.izumoga.com/?eid=191>

Digital Moths of Japan, マエジロアカフキヨトウ, http://www.jpmoth.org/~dmoth/80_Noctuidae/23Hadeninae/3610Mythimna/3637Mythimna_pallidicosta/Mythimna_pallidicosta.htm

(Teru Tsubota 兵庫県神崎郡市川町)

兵庫県宍粟市でフェモラータオオモボトハムシ

三木 進

2016年7月23日、兵庫県佐用町船越にある佐用町昆虫館に、宍粟市で採集したというフェモラータオオモボトハムシ *Sagra femorata* (Drury) の生体1個体が持ち込まれたので報告する(写真)。



宍粟市で見つかったフェモラータオオモボトハムシ。

採集者は匿名希望の小学生で、宍粟市中心部の駐車場で、路面を「葉っぱを背負って歩いていた」という。ご両親は、すでに虫の名前を知っておられ、「やっぱりそうですか。こんな虫がいるとは」と昆虫館に持参された。

色彩は、「強い光沢を持つ、赤みが強い」系統であった。飼うなら絶対に逃がさないことをお願いし、同日夕、発見場所近くを探したが、クズの群落は見つからなかった。

本種は、インドから東南アジア、中国南部に分布するが、2006年7月に三重県松阪市周辺で発見され、マメ科植物の害虫であることから駆除が試みられたが、同市内に定着してしまったという。

三重県総合博物館の昆虫担当学芸員、大島康宏氏によると、2016年8月の時点で三重県外からの確実な情報はなく、2016年に入って、三重県内での発見例が急増し、松阪市に続き、津市内で多くなっているという。主にクズへの食害が報告されているが、他の農産物等へ

の影響は今のところなく、「車についていた」との情報もあり、どこかで発生したものが、車で運ばれたことも考えられる、とのことだった。

いずれにしても人為的な持ち込みが考えられるが、3～4月にクズの蔓の部分に本種が作る虫こぶ・ゴールを見つけることが、本種発見の近道になる。宍粟市はじめ各地のクズなどに注意していただきたい。

○参考文献

- 秋田勝己・乙部宏・高桑正敏, 2010. 三重県に定着した外来種フェモラータオオモボトハムシの駆除を試みて. 月刊むし, 473: 43-44
- 秋田勝己・乙部宏・鈴木知之・中西元男・高桑正敏, 2011. 三重県に定着したフェモラータオオモボトハムシ. 月刊むし, 485: 36-43
- 戎谷秀雄・宮武頼夫, 2011. 三重県におけるフェモラータオオモボトハムシの2006年の記録. 月刊むし, 488: 41

(Susumu MIKI 兵庫県明石市)

姫路市京見山でケカゲロウを採集

脇村 涼太郎

筆者は2016年6月25日に姫路市広畑区京見山において、ケカゲロウ *Isoscelipteron okamotoi* を1個体採集しているので報告する(写真).



ケカゲロウはケカゲロウ科 Berothidae の中で唯一の日本産種で比較的稀な種とされる。幼虫はシロアリを食べ成長し(小松, 2014)成虫は光に集まることが知られている。しかし、記録は少なく、採集例も多くない。

今回採集したのは姫路市広畑区京見山の南側標高100m付近である。この山はシカによる食害と乾燥が

激しく虫にとってあまりいい環境ではない。天候は雨時々曇りで何かいないかとビーティングしながら山を登っていると本種が1頭落ちた。その後もこの山に採集に行っているが未だ追加個体は得られていない。

○参考文献

- 小松貴, 2014. 裏山の奇人: 野にたゆたう博物学. 東海大学出版会.
- 丸山宗利・小松貴・工藤誠也・島田拓・木野村恭一, 2013. アリの巣の生きもの図鑑. 東海大学出版会.
- (Ryōtarō WAKIMURA 姫路市立広畑中学校2年)

兵庫県佐用郡でイトヒキミジンアリタケを採集

脇村 涼太郎

筆者は2016年4月3日に佐用郡佐用町船越においてイトヒキミジンアリタケ *Cordyceps* sp. を採集したので報告する(写真).



イトヒキミジンアリタケは冬虫夏草の一種で基本的にオオアリの仲間を宿主とする。個体数は場所によっては多い。ただ、色彩が地味なため発見は困難を極める。似た種に台湾アリタケがいてイトヒキミジンアリタケと酷似している。台湾アリタケは湿った場所にいるのに対しイトヒキミジンアリタケは比較的乾燥した場所に生息している。

今回採集したのは佐用町船越の瑠璃寺へと続く林道の脇に生えている杉の樹皮下である。この日は佐用昆虫館で毎年恒例の虫開きが行われていた。その後、樹皮めくりで何か採集できないものかと杉の皮を剥ぎまわっていたところ本個体を発見した。その後も樹皮めくりを続けたが、追加個体は得られなかった。

家に帰って調べてみたところ、アリタケの一種であることは分かったがそれ以上のことは分からなかった。しかし、神戸大学で毎年行われているムシのお話五つ星